

榊原病院 Monthly

Vol.34 2019.April

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。

日本司法精神医学会評議員。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 176床

- ・ 精神科病棟 158床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 認知症ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

《 榊原の春を迎えて 》

院長 村田 昌彦

今冬を振り返りますと、昨年より暖かな日が多かったように思います。そのため、今年は花粉が例年より多く飛散したように感じますが、皆様は花粉症などの体調面はいかがでしたでしょうか。この原稿を書いている間にも少しずつ花粉は減り、病院玄関の前の桜が花を咲かせ始めました。日当たりが良い場所なのか、気の早い1本です。裏の金毘羅山からはウグイスが春を告げ始めています。こちらはまだ上達していないのか、「ホーホケキョ チュン」と練習中です。5月になれば上達して鳴くことができるようになりますから、桜とともに当院の季節限定の風物詩といえるもので、ぜひお越しいただき、目と耳で楽しんでいただけたらと思います。

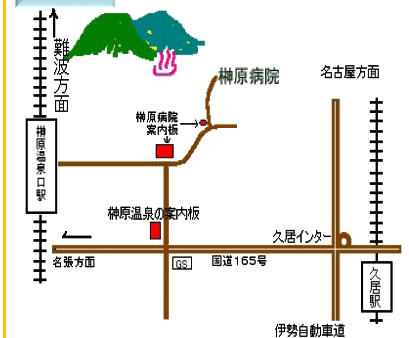
今年になり、当院は三重県よりアルコール治療拠点の指定を受けることになりました。これまでも当院がアルコールをはじめとして、ギャンブルや薬剤など様々な依存に取り組んできたことへの評価をいただいたことと考えます。折しもこの3月より減酒剤がご利用いただけることになったことも、アルコール治療を促進する機運となりそうです。アルコールの問題でお困りの方はご相談ください。

当院の果たす役割として、このアルコールなど依存的な問題のほか、児童思春期の問題、認知症にかかわる予防や問題行動、うつや不安などの気分障害、さらに難治例を含めた統合失調症や知的障害に伴う行動障害などに対して、専門性を生かした診断や治療を行っています。また退院した患者さんに対する訪問看護や往診体制も昨年度より強化してきましたが、今年度からは訪問看護ステーションにバージョンアップして、より一層患者さんの再入院を防ぎ、地域生活を支援する予定です。

診療業務のほかにも、災害時に精神科医療を提供して支援するDPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team) も定期的に研修を行い、有事の際に備えています。

東日本大震災や熊本地震のような災害時に精神科病院の支援や避難者の健康支援を行うため、訓練や体制作りに励んでいます。当院も熊本地震の時にチームを派遣し、阿蘇地区の病院の支援を行いました。何事もないのが一番ですが、南海トラフ大地震が起きたときに支援を行う、あるいは支援を受けることができるように準備を進めています。

このように、当院は患者さんから見えるところ、見えないところで活動しています。当院は医師や看護師だけでなく、心理士 (CP) や作業療法士 (OT)、精神保健福祉士 (PSW)、薬剤師、栄養士、検査技師、放射線技師、事務職が多職種一丸となって活動しています。榊原地区で行われる桜祭りや収穫祭にも多職種がお手伝いにお邪魔しますので、お気軽にお声がけください。



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス (榊原温泉口駅行) にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター (伊勢自動車道) より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス (約25分)



トピックス

行事・
出来ごと

- 平成31年1月27日、第4回市民公開講座を開催
- 平成31年4月6日、第22回榊原温泉さくら祭りに参加予定
- 平成31年4月20日、第5回市民公開講座を開催予定

教育・
研修

- 平成31年2月15日、三重県医療観察法ネットワーク研修会開催
- 平成31年2月28日、14:00～ 自閉症・発達障害研修会 (於: 三重県総合文化センター)
- 平成31年3月20日、三重県難治性精神疾患ネットワーク研修会・症例検討会 (YOU-C-C) 開催

榊原病院ホームページ
QRコード



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできずに使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっておりま。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成31年3月までに全症例は77例となりました。新規導入は1月3例、2月1例、3月2例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。

一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われております。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは毎週、木曜日を除く週4日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。榊原地区の自然を楽しむ町内散歩や、スポーツ、音楽、アートなど様々な楽しみごとを行います。昼食づくりやお菓子作り、喫茶の会など、実用的な体験もできます。参加者で協力しあって、コミュニケーションの練習も、がんばっています。

参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。

お花見に行きました！



満開の桜にはまだ少し早かったですが、外で食べるお弁当は格別でした。右はみんなで作ったケーキデコレーションです。

栄養コラム



《栄養と運動はやっぱり大切！！》

食事と運動が大切なことは周知の事実ではありますが、平成29年度の国民栄養調査結果において、60歳以上の方でたんぱく質の摂取量が多いほど、骨格筋指数の平均値が有意に高かったと報告されています。年齢とともに食生活に気を付け肉食主義にしているという方もみえると思いますが、肉や魚のたんぱく源を控えすぎることに注意が必要です。また、同調査ではたんぱく質摂取量が多く、肉体労働をしている時間が長いものほど骨格筋指数の平均値が有意に高いとも報告されています。やはり食事と運動の両方に注意しましょう。

健康睡眠12ヶ条

第七条 若い世代は夜更かししないで、体内時計のリズムを保ちましょう！

夜遅くまで寢床にいても夜型の生活が固定化してしまっています。寢床に入ったのメールの確認や動画の鑑賞、ゲームは目が覚める原因になります。これは集中することによる覚醒と、画面から出る光（ブルーライト）が原因です。

朝、目が覚めたら日光を浴びて睡眠をリセットしましょう。光を浴びるとメラトニンという睡眠促進物質が抑制され、睡眠～覚醒リズムを作ります。

朝食をとることもリズムを作ることに大きく貢献します。

